

黒毛和種牛繁殖 2 農場における中耳炎対策について

但馬基幹家畜診療所

○白澤純一 中村善彦 小西健治 川上 徹 荻野好彦

近年、県内において中耳炎の発症は増加傾向にある。本症は伝染性、難治性の特徴から農家に与える損失は大きい。今回、黒毛和種牛繁殖 2 農場で中耳炎予防対策を実施したところ発症が減少したので報告する。

材料および方法

1. 調査期間 2011 年 1 月～2013 年 12 月
2. 農場概要 A 農場：母牛 55 頭，2002 年より出生～2 ヶ月齢の全頭に代用乳最大 2L 給与
B 農場：母牛 20 頭，2010 年より出生～3 ヶ月齢の全頭に代用乳最大 2L 給与
3. 調査項目 飼養管理状況，衛生管理状況，出生頭数，中耳炎発症状況
4. 対策

A 農場

- 1) 牛舎環境の改善 2) 哺乳器具の消毒 3) 牛舎消毒の徹底 4) 飲水環境の改善
- 5) 子牛管理の変更(発症牛移動，粗飼料変更，アイブロシン投与)
- 6) ワクチンプログラムの変更 7) 追加哺乳中止

B 農場 1) 牛舎消毒 2) 哺乳器具の衛生管理 3) 追加哺乳中止

結果

2012 年 12 月，A 農場の健康子牛および中耳炎罹患子牛の鼻腔スワブから *Mycoplasma bovis*, *M. bovirhinis*, *M. dispar* を検出した(PCR, 菌分離)。A 農場の中耳炎発症頭数/出生頭数は 2011, 2012, 2013 年それぞれ 1/37, 16/40, 6/34 頭であった。発症日齢は 10～133 日齢，平均 55 日齢であった。2012 年 7 月より上記 1)～5) の対策を実施した。2013 年 4 月より呼吸器ワクチンの対象を子牛から母牛へ変更，5 月より追加哺乳を中止した。2013 年の中耳炎発症割合(発症頭数/出生頭数(%))は，1～4 月で 4/8(50%)，5～12 月で 2/26(7.7%)であった($P<0.05$)。

B 農場での中耳炎発症頭数/出生頭数は 2011, 2012, 2013 年それぞれ 1/12, 2/13, 4/11 頭であった。2013 年 5 月より追加哺乳を中止した。同年の中耳炎発症割合は 1～4 月に 4/6(66.7%)，5～12 月では 0/5(0%)であった($P<0.05$)。

考察

A 農場では，健康牛からもマイコプラズマが検出され，農場全体にマイコプラズマが浸潤していたと考える。A 農場において中耳炎多発時期にワクチンを接種した後に中耳炎が発症する傾向がみられた。A, B 農場では追加哺乳を中止したことで中耳炎発症が減少した。これらの結果から，A 農場においてはワクチン接種および追加哺乳が，B 農場においては追加哺乳がストレスとして中耳炎発症の誘因となったと考えた。